

# GYODA CONJUNCTION

## Integrated axes

八代研究室  
00512147 野中 恒孝

### 1. はじめに

Conjunctionとは結合や関連という言葉を表す。本計画では埼玉県行田市においてワークショップの手法を取り入れた。ワークショップは近年日本で「体験型講座」を指す言葉として浸透しつつあるが、未だその認知度や正しい意味を知る人は少ないのが現状である。そこでワークショップという仕組みを主に活用、計画した建築を設計する。Conjunction「結合」をテーマに掲げ、地域交流への貢献や発展に繋がるような新たなまちづくりの形を提案する事が本計画の大きな狙いである。

### 2. 敷地

- ・ 行田市本丸 5-10（第二種住居地域）
- ・ 敷地面積：9910 m<sup>2</sup> 建蔽率：46%
- ・ 選定理由 図1の敷地北部には行政地区があり、敷地周辺は住宅街が並ぶ。他に教育施設や老人ケアセンターもある。この敷地は憩いの場である水城公園に面していて多様な要素、様々な目的を持つ人々が交錯する行田市における中心地である(図1)。

### 3. 設計主旨

まちづくり地域交流、イベント運営、企画、提案、活性化のワークショップ文化を地域社会に発信する事を目的とした、文化交流の基点となる新たな複合交流建築の計画を行う。

「水と緑 個性あふれる文化都市」の標語を掲げる行田市にワークショップ施設計画を推進するにあたり、この敷地は行政、住民、教育の関係が効果的にConjunction(結合)している。そこに「導入」「創造」「芸術」「教育」「文化」の5つの要素をAxis(軸)として考えて取り入れ、各々の要素を関係する環境へ向けて軸の向きを設定させる。5つの軸は敷地上に交錯し、Integrate(積層)する。その要素、個性が交錯する事はワークショップ環境において一人ひ

とりが様々な出会いに触発され、個性ある文化都市にちなんだ計画の基点となるのである。

### 4. 配置計画

60mの箱状のAxis line(軸線)を設定し、そのAxis lineを5つの要素に従い、建物を5層に配置する。平面上にはさらに分散して配置させ、その配置の矛先は関係のある地区へと向けられている。「教育」であれば周辺の教育施設方面へとAxis lineは繋がっており、共有や関係性を図るのが狙いである。図2のように5つの要素が詰まったAxis lineは積木のように積層する。積層は不規則に重なる。すると建物の配置はより不整列なバランスになり、それにより部分的な隙間が生まれ、そこに想像性ある面白い空間が生まれるのである(図2)。

### 5. 動線計画

1F 導入部分から建物内へ入ると、中央の階段を上り目的別に2F 創造や3F 芸術または4F 教育5F 文化へと導かれる。多彩な表情を見せる各階フロアで人々は様々な体験をする事が出来る。図3のようにイベントスペースを建物に隣接して配置し、様々なワークショップ活動や行事や野外活動が可能なエリアを広く設置する。そして建物と屋外広場を視線や動線で繋ぎ、足を運びやすくする。広場の先には公園の池があり、動線は敷地と公園を繋ぎ、水城公園全体に建物との関係性が出てくるのである(図3)。

### 6. まとめ

これからの時代大切に求められる事はモノの所有から生まれるような豊かさではなく「人と人」や「人と自然」の交流の中から生じる喜びや豊かさを実感する事だと本計画を通して提案する。

#### 【参考文献】

中野民夫「ワークショップ-新しい学びと創造の場-」  
岩波新書 2001

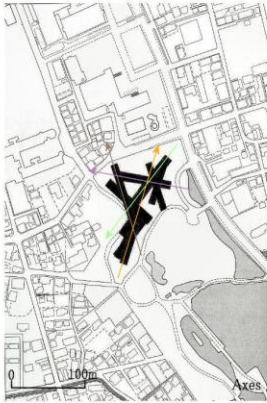


図1 敷地図

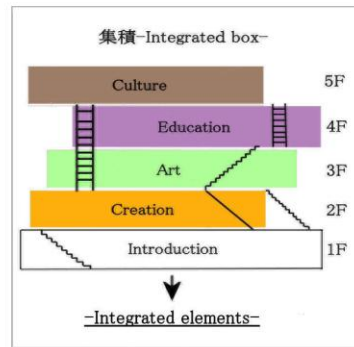


図2 各階概念図



図3 屋外イベントスペース模型

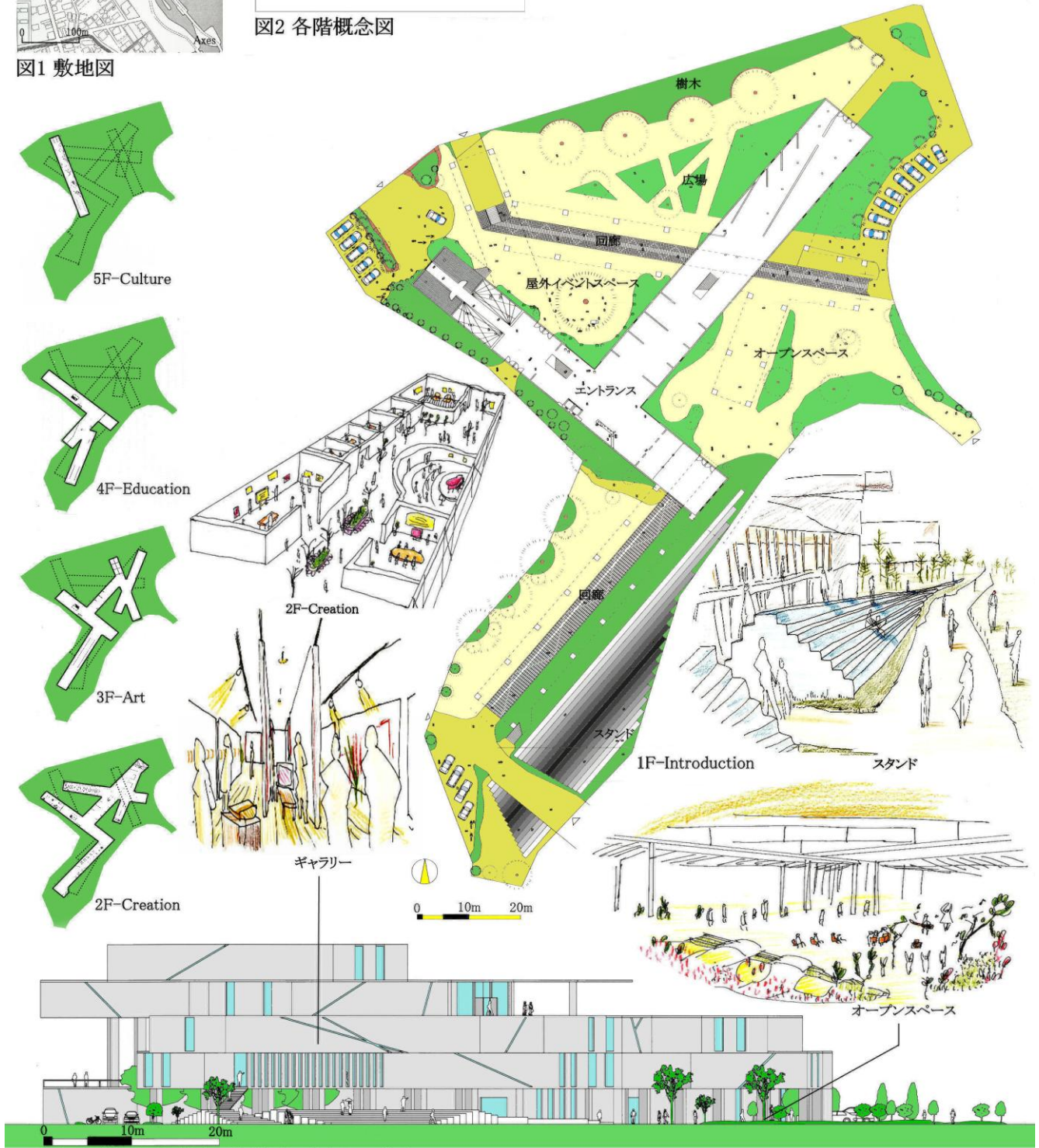


図4 各階平面・南立面図およびイメージ図